

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 31-005

PDCA	事務事業名	企画展開催事業（新美南吉記念館）	部課等名	教育部 博物館 新美南吉記念館	担当	遠山		
					内線等	26-4888		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち 節： 第2節 生涯学習の推進 基本施策： 3. 文化の継承と創造 単位施策： （3）新美南吉の顕彰と南吉文学の普及 個別施策： ①企画展・童話賞事業						
	根拠法令等	—						
	対象・目的	常設展示とは違う視点で南吉及び南吉作品を取り上げた企画展（特別展）を実施することで、新たな魅力を感じてもらう。						
	目的を達成するための手段・活動内容	毎年違うテーマで、常設展示とは別に期間限定の企画展（特別展）を開催する。平成30年度の特別展は、児童雑誌『赤い鳥』の創刊100年を記念し、同誌が南吉の創作に与えた影響や同誌を通じて培われた人脈などについて紹介。展示作成は、プロポーザルにより委託業者を選定する。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果			28年度	29年度	30年度	単位	
		①企画展（特別展）開催日数		87	151	93	日	
		②ミュージアム・トーク（学芸員による特別展解説）		8	13	8	回	
		③						
		事業費		2,903	2,999	2,794	千円	
		人件費		3,551	3,806	9,062	千円	
		総事業費		6,454	6,805	11,856	千円	
		活動単位当たりのコスト		28年度	29年度	30年度	単位	
	成 果	①企画展観覧者1人あたりの企画展開催コスト		267	184	261	円	
		②						
		③						
		成果指標		28年度	29年度	30年度	単位	
		①特別展1日あたりの観覧者数		実績値	278	245.9	258.2	人
				目標値	330	250	310	
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 妥当		④上位施策への貢献 大きい		⑦コスト削減余地 ない		
		②市民ニーズ 高い		⑤成果向上の余地 ある		※対象・手段の変更		
	事業の評価・課題	③休廃止の影響 大きい		⑥類似事業の有無 ない		⑧受益者負担適正化余地 ない		
		A						
		特別展では、神奈川近代文学館を始め全国の『赤い鳥』作家ゆかりの施設と連携することで、南吉に留まらない多彩な展示ができた。日経新聞が取り上げるなど普段とは違うメディアからも注目され、感想ノートや関連行事のアンケートを見ても、幅広い層の関心を集めたことがわかる。『赤い鳥』創刊100年というタイミングを最大限に活かして、児童文学史上における南吉の存在感を全国に示すことができた。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 新美南吉の魅力発信という核心を貫きながらも、時宜的な話題を捉え、南吉及びその文学の魅力を毎年の企画展（特別展）の内容に反映することで、来館者が何度も足を運びたくなる記念館となるよう、今後も充実を図る。令和元年度は、イラストレーター山本正子氏の原画展やストップモーションアニメ「ごん」の世界展など、ビジュアルを通して興味を引き出す展示に力を入れ、南吉ファン以外の広い層への訴求を図る。						
	令和元年度の目標	成果指標		目標値		単位		
		①特別展1日あたりの入館者数		310		人		